

平成 29 年度

修士課程 臨床鍼灸学専攻

授 業 概 要

明治国際医療大学大学院

大学院 臨床鍼灸学専攻 教育課程

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	時間数	内科系臨床鍼灸学	整形外科系臨床鍼灸学	外科系臨床鍼灸学	ウェルネス臨床鍼灸学	備考
					必修	必修	必修	必修	
基盤科目	統合医療学特論Ⅰ	1	2	30	2	2	2	2	
	統合医療学特論Ⅱ	1	2	30	2	2	2	2	
	臨床鍼灸学特論Ⅰ	1	1	15	1	1	1	1	
	臨床鍼灸学特論Ⅱ	1	1	15	1	1	1	1	
	伝統鍼灸学特論	1	1	15	1	1	1	1	
	臨床鍼灸学演習	1	1	30	1	1	1	1	
	伝統鍼灸学演習	1	1	30	1	1	1	1	
	附属鍼灸センター特別実習	1	4	120	4	4	4	4	
	附属病院特別実習	1	4	120	4	4	4	4	
	臨床鍼灸研究技法	1	2	30	2	2	2	2	
専門科目	内科系臨床鍼灸学特論	1	2	30	2				
	整形外科系臨床鍼灸学特論	1	2	30		2			
	外科系臨床鍼灸学特論	1	2	30			2		
	ウェルネス臨床鍼灸学特論	1	2	30				2	
	内科系臨床鍼灸学演習	2	2	60	2				
	整形外科系臨床鍼灸学演習	2	2	60		2			
	外科系臨床鍼灸学演習	2	2	60			2		
	ウェルネス臨床鍼灸学演習	2	2	60				2	
	附属病院内科系特別実習	2	4	120	4				
	附属病院整形外科系特別実習	2	4	120		4			
	附属病院外科系特別実習	2	4	120			4		
	ウェルネス臨床鍼灸学特別実習	2	4	120				4	
	特別研究	1~2	8	240	8	8	8	8	
合計 (23 科目)		—			35	35	35	35	

## 目 次

### 基盤科目

1. 統合医療学特論Ⅰ	1
2. 統合医療学特論Ⅱ	2
3. 臨床鍼灸学特論Ⅰ	4
4. 臨床鍼灸学特論Ⅱ	7
5. 伝統鍼灸学特論	10
6. 臨床鍼灸学演習	12
7. 伝統鍼灸学演習	15
8. 附属鍼灸センター特別実習	17
9. 附属病院特別実習	18
10. 臨床鍼灸研究技法	19

### 専門科目

1. 内科系臨床鍼灸学特論	22
2. 整形外科系臨床鍼灸学特論	23
3. 外科系臨床鍼灸学特論	24
4. ウェルネス臨床鍼灸学特論	25
5. 内科系臨床鍼灸学演習	26
6. 整形外科系臨床鍼灸学演習	27
7. 外科系臨床鍼灸学演習	28
8. ウェルネス臨床鍼灸学演習	29
9. 附属病院内科系特別実習	30
10. 附属病院整形外科系特別実習	31
11. 附属病院外科系特別実習	32
12. ウェルネス臨床鍼灸学特別実習	33
13. 特別研究	34

授 業 科 目 名	統合医療学特論 I					
授 業 科 目 名	統合医療学特論 I					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	講義	授業年次	1年前期
授 業 担 当 者	◎ 伊藤和憲、斉藤宗則、山崎翼					
テ ー マ	統合医療の概念とそれに必要な知識					
授 業 の 概 要	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。</p> <p>①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合医療の概念について理解すること</li> <li>2. 統合医療を広めるために必要な知識</li> <li>3. 伝統医学、CAM の特徴および長所と短所を理解すること</li> <li>4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること</li> <li>5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること</li> </ol>					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	<p>[授業概要] 統合医療とは何か？（伊藤 1）</p> <p>[到達目標] 統合医療とは何かについて、社会的は計も踏まえて理解する。</p>					
2	<p>[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 1（山崎 1）</p> <p>[到達目標] エビデンスの意味やその調べ方、その作り方について議論を深める。</p>					
3	<p>[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 2（山崎 2）</p> <p>[到達目標] エビデンスを作るために必要な研究デザインの知識について議論を踏まえる。</p>					
4	<p>[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 3（山崎 3）</p> <p>[到達目標] 医師と連携するために必要な西洋</p>					

	医学的知識について議論を深める。	
5	[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 4 (山崎 4) [到達目標] 医師と連携するために必要な西洋的検査について議論を深める。	
6	[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 5 (斉藤 1) [到達目標] 東洋医学の歴史と概念について議論を深める。	
7	[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 6 (斉藤 2) [到達目標] 東洋医学の基礎技術について議論を深める。	
8	[授業概要] 統合医療に必要な基礎知識 7 (斉藤 3) [到達目標] 古文献の読み方について議論を深める。	
9	[授業概要] 統合医療各論:1 (斉藤 4) [到達目標] アロマセラピー・ハーブ・フラワーアレンジメントなど自然療法に関する統合医療について理解を深める。	各自でテーマを決めて発表する
10	[授業概要] 統合医療各論:2 (斉藤 5) [到達目標] ヨガ・太極拳など運動に関する統合医療について理解を深める。	各自でテーマを決めて発表する
11	[授業概要] 統合医療各論:3 (斉藤 6) [到達目標] アニマルセラピー・園芸療法など運動に関する統合医療について理解を深める。	各自でテーマを決めて発表する
12	[授業概要] 世界の統合医療 1 (斉藤 7) [到達目標] 欧米の統合医療について理解を深める。	各自でテーマを決めて発表する
13	[授業概要] 世界の統合医療 2 (斉藤 8) [到達目標] アジアの統合医療について理解を深める。	各自でテーマを決めて発表する
14	[授業概要] 世界の統合医療 3 (斉藤 9) [到達目標] その他の地域の統合医療について理解を深める。	各自でテーマを決めて発表する
15	授業概要] まとめ (伊藤 2)	

	[到達目標]・全体の総括を行う。統合医療についての意見交換を行う。	
テキスト（配付資料）	配布資料及び 今西二郎：統合医療, 金芳堂, 2008.	
参 考 文 献	1. 入門漢方医学, 日本東洋医学会学術教育委員会編集, 南江堂, 2002. 2. 今西二郎：メディカル・アロマセラピー第2版, 金芳堂, 2010. 3. 今西二郎：医療従事者のための補完代替医療第2版, 金芳堂, 2009.	
評 価 方 法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢（発言など）などによって総合的に評価する（60点以上を合格とする）。	
その他（アドバイス等）	特になし	

授 業 科 目 名	統合医療学特論Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1年
授 業 担 当 者	◎ 伊藤和憲					
テ ー マ	統合医療の基本となる養生について、その原理と基礎となる理論を学習することで、統合医療の本質を理解する					
授 業 の 概 要	養生の基礎となる①身体を知る、②身体を緩める、③身体を鍛える、④身体を整える、⑤身体を温める、⑥身体と食習慣、⑦身体と生活習慣について学ぶことで、エビデンスに基づく現代版養生訓を理解する。					
視 点 (ねらい)	1. 養生について理解する。 2. 養生の基本理論と方法論を理解する。 3. 養生を活用できるための方法を理解する。					

授 業 計 画

日程	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)
1	[授業概要] 養生とは？	
	[到達目標] 養生とは何かについて、その霧論を学習する。	
2	[授業概要] 養生教育1：身体を知る	
	[到達目標] 養生の基礎である。身体の気づきについて理解する	
3	[授業概要] 養生教育2：身体をゆるめる	
	[到達目標] 身体をゆるめることについて、その方法論を理解する	
4	[授業概要] 養生教育3：身体を温める	
	[到達目標] 身体を温めることについて、その方法論を理解する	
5	[授業概要] 養生教育4：身体を鍛える	
	[到達目標] 身体を鍛えることについて、その方法論を理解する	
6	[授業概要] 養生教育5：身体と食習慣	
	[到達目標] 身体と食事について、その方法論を理解する	
7	[授業概要] 養生教育6：身体を整える	
	[到達目標] 心や自律神経と身体の関係について、その方法論を理解する	
8	[授業概要] 養生教育7：身体と生活習慣	
	[到達目標] 身体と伝統行事について、その方法論と関係を理解する。	
9	[授業概要] 養生教育8：現代における養生	
	[到達目標] 身体と人間関係や情報について、身体の関係を理解する	
10	[授業概要] 養生教育9：養生訓	

	[到達目標] 養生訓をについて理解する	
11	[授業概要] 養生各論1:子供における養生教育	
	[到達目標] 子供に対する養生教育のあり方について学習する。	
12	[授業概要] 養生各論2:大人における養生教育	
	[到達目標] 大人に対する養生教育のあり方について学習する。	
13	[授業概要] 養生各論3:高齢者における養生教育	
	[到達目標] 高齢者に対する養生教育のあり方について学習する。	
14	[授業概要] 養生各論4:患者における養生教育	
	[到達目標] 患者に対する養生教育のあり方について学習する。	
15	[授業概要] まとめ	
	[到達目標] 養生のあり方について議論する	
テキスト (配布資料)	配布テキスト	
参 考 図 書 (購入の必要はない)	1. 伊藤和憲:慢性痛は自分で治せる (KK ベストセラーズ) 2. 伊藤和憲:いちばんやさしい痛み治療 (医道の日本)	
評 価 方 法	レポート提出および発表で、総合的に評価を行う。	
その他 (アドバイス等)	特になし	

授 業 科 目 名		臨床鍼灸学特論 I				
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 苗村建慈、糸井 恵、糸井啓純、樋口敏宏、納谷佳男、 福田文彦					
テ ー マ	1) 医療機関における鍼灸臨床の意義と役割 2) 現代医学の最新の医学情報					
授 業 の 概 要	<p>医療機関(病院、診療所など)における鍼灸臨床の意義と役割、鍼灸師の立場、チーム医療、コメディカルスタッフとの提携及び保険適応疾患の同意などについて学習する。また、現代医学におけるトピックスを取りあげ、最新の医学情報を紹介する。このことを通して、幅広い最新の知識を学習する。</p> <p>(苗村建慈/1 回) 内科領域のトピックスを取り上げ、内科の最新情報について学習する。</p> <p>(苗村建慈/1 回) 内科領域のトピックスを取り上げ、内科の最新情報について学習する。</p> <p>(糸井啓純/1 回) 外科領域のトピックスを取り上げ、外科の最新情報について学習する。</p> <p>(糸井 恵/1 回) 整形外科領域のトピックスを取り上げ、整形外科の最新情報について学習する。</p> <p>(樋口敏宏/1 回) 脳外科領域(脳研究含む)のトピックスを取り上げ、脳外科の最新情報について学習する。</p> <p>(納谷佳男/1 回) 泌尿器科領域のトピックスを取り上げ、泌尿器科の最新情報について学習する。</p> <p>(山田 潤/1 回) 全身の免疫系を基軸において、眼疾患を中心とした診断治療に関する最近の知見を教授する。</p> <p>(山崎 翼/1 回) 医療機関における鍼灸の実際と問題点について学習する。</p>					
視 点 (ねらい)	1) 医療機関における鍼灸医療の意義と役割について学習する。 2) 現代医学における最新の医学情報を学習し、最先端の内容を理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要		備考 (授業時間外学習の指示等)			
1	<p>[授業概要(苗村1)] 急性期の呼吸器疾患の診断と治療</p> <p>[到達目標(苗村1)] 急性期の呼吸器疾患の診断と治療を理解する。また、これらの疾患のうち、気管支喘息やCOPDにおいて、安定期や慢性期における鍼灸治療の適応について考察する。</p>		<p>下記の参考文献 1. または、参考文献 2. の気管支喘息、COPD、特発性間質性肺炎の項を読んでおくこと。</p>			

2	[授業概要(苗村2)]循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する	循環器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(苗村2)]循環器疾患の終末期像である心不全の疫学、病態および診断治療指針と予後について理解できる	
3	[授業概要(糸井啓1)] 外科領域のトピックスとして、「消化器癌治療の進歩」を取り上げ、胃癌の治療を中心に外科の最新情報について学習する。	「胃癌取扱い規約」、「胃癌治療ガイドライン(医師用)」、「胃癌治療ガイドラインの解説(一般用)」について、その内容を調べる。旧版のガイドラインは日本胃癌学会HP( <a href="http://www.jgca.jp/">http://www.jgca.jp/</a> )より、ダウンロードできる。
	[到達目標(糸井啓1)] 癌治療に用いる「取扱い規約」、「治療ガイドライン」の在り方を胃癌の治療から学ぶ。この概念を東洋医学の分野に応用することを目指す。	
4	[授業概要(糸井恵1)]関節リウマチの診断と治療に関する最新のトピックスについて説明する。	講義内容の概要をプリントする。
	[到達目標(糸井恵1)]関節リウマチに関して理解を深める。	
5	[授業概要(樋口1)]脳血管障害について、出血性疾患と虚血性(閉塞性)疾患にわけて、最新の知見を含めて解説する	脳血管障害の中でも、特にクモ膜下出血、脳出血、脳梗塞について、病態、疫学、診断、治療、予防に関する知識を蒐集し整理を行う。論文の検索、理解などによって、最新の知見を蒐集する。
	[到達目標(樋口1)]脳血管障害の病態、疫学、診断、治療、予防について理解する	
6	[授業概要(山田1)]全身の免疫系を基軸において、眼疾患を中心とした診断治療に関する最近の知見を教授する。	授業に関連した資料についての復習を行う。
	[到達目標(山田1)]局所における細胞から組織、そして全身の関わりを理解し、疾患予防や治療戦略について理解する。	
7	[授業概要(納谷1)]泌尿器疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。	講義スライドで出てくる用語については、参考資料を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。
	[到達目標(納谷1)]泌尿器科疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる	
8	[授業概要(山崎1)]医療機関における鍼灸臨床の可能性について。	
	[到達目標(山崎1)]医療機関における鍼灸治療の可能性について理解出来る。	
テキスト(配付資料)		講義内容の概要をプリントで配布する。
参 考 文 献		苗村健治担当 1. 新臨床内科学第9版:高久史磨ほか編,医学書院,2009 2. 内科学第9版:杉本恒明ほか編,朝倉書店,2007 糸井啓純担当

	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 日本胃癌学会編、「胃癌取扱い規約」第14版. 金原出版, 2010.</li><li>2. 日本胃癌学会編、「胃癌治療ガイドライン」第3版. 金原出版, 2010.</li></ol>
評価方法	課題に対するレポートにより評価する。
その他（アドバイス等）	課題に対するレポート作成に関連して、講義に出てくる専門用語、概念で分かりにくい点を、講義の間に、その場で解決する。

授 業 科 目 名	臨床鍼灸学特論Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 廣 正基、福田文彦、井上基浩、伊藤和憲、田口玲奈、木村啓作					
テ ー マ	最新の鍼灸臨床研究の成果の理解					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸臨床におけるトピックスを取りあげ、最新の鍼灸臨床情報を紹介する。このことを通して、幅広い最新の知識を学習する。</p> <p>(福田文彦/1 回) 緩和医療における鍼灸臨床の成果と現状について、竹田太郎は循環障害の研究成果と現状について担当する。</p> <p>(井上基浩/1 回) 整形領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。</p> <p>(田口玲奈/2 回) 産科・婦人科における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(伊藤和憲/2 回) 疼痛領域における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(木村啓作/1 回) スポーツ傷害における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(廣 正基/1 回) 循環器領域における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p>					
視 点 (ねらい)	鍼灸臨床における最新のトピックスおよび鍼灸臨床に関する研究を取り上げ、鍼灸臨床の研究の現状と可能性について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
	[授業概要(福田)] 緩和医療に関する最新の知見について解説する。			緩和医療に関する最新の知見について予習する。		
	[到達目標(福田)] 緩和医療に関する最新の知見について理解する。					
	[授業概要(井上)] 整形領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。					
	[到達目標(井上)] 整形領域における鍼灸臨床の研究成果について理解する。					
	[授業概要(田口1)] 産科における鍼灸臨床の成果と現状につ			関連する論文をあらかじめ予習する。		

	いて講義する。	テキストについては授業時に配布する。
	[到達目標(田口1)] 産科における鍼灸臨床の成果と現状について理解する。	
	[授業概要(田口2)] 婦人科における鍼灸臨床の成果と現状について講義する。	
	[到達目標(田口2)] 婦人科における鍼灸臨床の成果と現状について理解する。	
	[授業概要(伊藤 1)] 急性痛における鍼灸臨床の研究成果について学習する。	
	[到達目標(伊藤 1)] 急性痛における鍼灸臨床の成果と現状について理解する。	
	[授業概要(伊藤2)] 慢性痛における鍼灸臨床の研究成果について学習する。	
	[到達目標(伊藤 2)] 慢性疼における鍼灸臨床の成果と現状について理解する。	
	[授業概要(木村)] スポーツ医学系領域の研究成果および現状について教授する。	
	[到達目標(木村)] スポーツ医学系領域の研究成果および現状について理解することができる。	

6/2 4限	[授業概要(廣)] 循環器領域とくに高血圧における鍼灸臨床の研究成果と現状について教授する。	
	[到達目標(廣)] 高血圧における鍼灸臨床の研究成果と現状について理解することができる。	
テキスト (配付資料)	適宜指示する。	
参 考 文 献		
評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。	
その他 (アドバイス等)		

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 和辻 直、斉藤宗則					
テ ー マ	日本の伝統鍼灸の診察法、治療法について					
授 業 の 概 要	<p>日本の鍼灸臨床の特徴は、西洋医学と東洋医学を合わせた形で診療することが多い。この科目では、東洋医学の基本を強化し、鍼灸臨床における診察から治療までの過程の理解を深め、実践するための基本技能を強化する。</p> <p>(和辻 直/4 回) 臓腑と経絡の機能と病証、四診の所見と臨床的意義を担当する。</p> <p>(斉藤宗則/3 回) 病因と病機、治則と選穴、補瀉手技を担当する。</p>					
視 点 (ねらい)	日本の伝統鍼灸の診察法、治療法を理解するとともに、その伝統的鍼灸の特色を把握する。また、日本鍼灸と中医鍼灸の同と異について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要(和辻1)] 藏府の機能と病証			藏府の機能を復習する		
	[到達目標(和辻 1)] 藏府の機能と病証を理解する					
2	[授業概要(和辻2)] 経脈の機能と病証			経脈の流注を復習する		
	[到達目標(和辻 2)] 経脈の機能と病証を理解する					
3	[授業概要(和辻3)] 四診の所見と臨床的意義 1			四診法を復習する		
	[到達目標(和辻 3)] 四診の所見と臨床的意義 1 を理解する					
4	[授業概要(和辻4)] 四診の所見と臨床的意義 2			四診の所見と臨床的意義を復習する。		
	[到達目標(和辻 4)] 四診の所見と臨床的意義 2 を理解する					
5	[授業概要(斉藤1)] 病因と病機について			病因について復習する。		

	[到達目標(斉藤 1)] 病因と病機を理解できる	
6	[授業概要(斉藤2)] 治則と選穴について [到達目標(斉藤 2)] 治則と選穴について理解する	主な治則と選穴について整理して、まとめる。
7	[授業概要(斉藤3)] 虚実寒熱と補瀉法 [到達目標(斉藤 3)] 補瀉手技を説明できる。	補瀉手技を自ら行い、確認する。
テキスト (配付資料)	適宜指示する。	
参 考 文 献		
評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。	
その他 (アドバイス等)		

授 業 科 目 名	臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	演習	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 伊藤和憲、福田文彦、廣 正基、北小路博司 井上基浩、田口玲奈、木村啓作、山崎 翼					
テ ー マ	主要疾患、主要の病態生理学と評価法について					
授 業 の 概 要	<p>鍼灸臨床で遭遇する主要疾患、あるいは主要症状をとりあげ、それらの病態生理学について詳細に学習し、病態の理解を深める。また、主要疾患、あるいは主要症状に関連する種々の評価法について学習し、鍼灸治療の効果を客観的に評価する手法を学習する。</p> <p>(福田文彦/2 回) うつの病態生理と評価法について学習する。 がん患者の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(井上基浩/3 回) 変形性関節症の病態生理と評価法について学習する。 頸肩腕疾患の病態生理と評価法について学習する。 腰・下肢疾患の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(伊藤和憲/3 回) 急性痛の病態生理と評価法について学習する。 慢性痛の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(廣 正基/2 回) 高血圧の病態生理と評価法について学習する。 高齢者疾患の病態と評価について学習する・</p> <p>(田口玲奈/2 回) 産科疾患の病態生理と評価法について学習する。 婦人科疾患の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(木村啓作/1 回) スポーツ障害の病態生理と評価法について学習する。 (吉田行宏/1 回) コンディショニングの評価について学習する。 (北小路博司/1 回) 排尿障害の病態生理と評価法について学習する。 (山崎 翼/1 回) 疲労の病態生理と評価法について学習する。</p>					
視 点 (ねらい)	主要疾患、主要症状の病態生理学について理解するとともにそれらの疾患や症状に関する有用性の高い評価法について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要(伊藤)]ガイダンス					
	[到達目標(伊藤)]					

2	[授業概要(福田1)]うつ病の病態生理と評価法について解説する。 [到達目標(福田1)]うつ病の病態生理と評価法について解説する。	うつ病に関する病態について予習する。
3	[授業概要(福田2)]がん患者の病態と評価について解説する。 [到達目標(福田2)]がん患者の病態と評価について解説する。	
4	[授業概要(伊藤1)]急性痛の病態生理と評価法について教授する。 [到達目標(伊藤1)]急性痛の病態生理と評価法について教授する。	
5	[授業概要(伊藤2)]慢性痛の病態生理と評価法について教授する。 [到達目標(伊藤2)]慢性痛の病態生理と評価法について理解する。	
6	[授業概要(廣1)]高血圧の病態生理と評価法について教授する。 [到達目標(廣1)]高血圧の病態生理と評価法について理解する。	
7	[授業概要(廣2)]高齢者疾患の病態生理と評価法について教授する。 [到達目標(廣2)]高齢者疾患の病態生理と評価法について理解する。	
8	[授業概要(田口1)]産科の病態生理や治療法、さらには鍼灸治療の可能性について講義する。 [到達目標(田口1)]産科の病態生理や治療法（鍼灸を含む）について理解する。	
9	[授業概要(田口2)]婦人科の病態生理や治療法、さらには鍼灸治療の可能性について講義する。 [到達目標(田口2)]婦人科の病態生理や治療法（鍼灸を含む）について理解する。	
10	[授業概要(井上1)]膝関節疾患の病態生理と評価法について教授する。 [到達目標(井上1)]膝関節疾患の病態生理と評価法について理解する。	
11	[授業概要(井上2)]腰・下肢疾患の病態生理と評価法について教授する。 [到達目標(井上2)]腰・下肢疾患の病態生理と評価法について理解する。	
12	[授業概要(井上3)]頸肩腕疾患の病態生理と評価法	
13	[到達目標(井上3)]頸肩腕疾患に対する鍼灸治療を行う上で必要な病態生理と評価法について学ぶ。	

14	[授業概要(木村)]スポーツ障害の病態生理と評価法について教授する。 [到達目標(木村)]スポーツ障害の病態生理と評価法について理解する。	
15	[授業概要(吉田)]コンデショニングに対する評価方法について説明する。 [到達目標(吉田)]コンデショニングに対する評価方法について理解出来る。	
16	[授業概要(北小路)]泌尿器系疾患の病態生理と評価法について教授する。 [到達目標(北小路)]泌尿器系疾患の病態生理と評価法について理解する。	
テキスト（配付資料）	講義時に配布する。	
参 考 文 献	1) 高血圧治療ガイドライン 2009, 日本高血圧学会, 2009	
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価する。	
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	演習	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎和辻 直、斉藤宗則					
テ ー マ	臓腑および経絡の診断・治療					
授 業 の 概 要	<p>日本の伝統鍼灸の診療体系には、主に経絡治療と中医学があり、いずれも四診法を行って、病証を判断する。特に日本の伝統鍼灸の特徴は、切診によって得られる体表所見を重視する点、軽微な刺激を与えて治療する点、経絡経穴を意識して施術する点など挙げられる。これらの特徴を理解し、臓腑病・経絡病・経筋病・外感病の病態を判断する診療体系について理解を深める。同時に臨床に関係した東洋医学の古典文献の基礎知識から症例検討まで検討する。</p> <p>(和辻 直/7回) 外感病の診断と治療法を担当する。 (斉藤宗則/8回) 臓腑病の診断と治療法を担当する。</p>					
視 点 (ねらい)	臓腑・経絡学説にもとづく新しい診療システムについて理解するとともに臓腑・経絡の診断法と治療法について理解する。					
授 業 計 画						
日 程	概 要			備 考 (授業時間外学習の指示等)		
	<p>[授業概要(和辻1)] 概要と日本の伝統鍼灸診療体系の特徴。</p> <p>[到達目標(和辻1)] 4つの診断概念について特徴および要点を理解する。</p>			<p>経絡治療、中医鍼灸、現代的病態把握の底流に流れるコアは何かを考える。</p>		
	<p>[授業概要(和辻2)] 臓腑・経絡を理解する。</p> <p>[到達目標(和辻2)] 五臓六腑の生理病理、固有症状、経絡の流注と病的状態における病証について整理する。</p>			<p>東洋医学の臓象、経絡学説を理解する。</p>		
	<p>[授業概要(和辻3)] 経筋の特徴について理解する。</p> <p>[到達目標(和辻3)] 経筋の走行と病証について理解を深める。</p>			<p>経筋の特徴、経筋と筋との関係を理解する。</p>		
	<p>[授業概要(和辻4)] 症例カンファレンス1</p> <p>[到達目標(和辻4)] 症例を提示させ、その病証を理解する。和辻、斉藤</p>			<p>症例より病証の把握を理解する。</p>		
	<p>[授業概要(斉藤1)] 臓腑病と診療の進め方</p> <p>[到達目標(斉藤1)] 臓腑病の概念、診療ポイントが理解できる。</p>			<p>あらかじめ、『東洋医学概論』『鍼灸学基礎編』の臓象、病因、病機を復習しておく。</p>		

	[授業概要(斉藤2)]臓腑弁証 1	指定された証について概要、診断ポイント、治療などを調べ、発表の準備をしておく。
	[到達目標(斉藤2)] 肝、心、脾の主要証のポイントを把握する。	
	[授業概要(斉藤3)] 臓腑弁証 2	指定された証について概要、診断ポイント、治療などを調べ、発表の準備をしておく。
	[到達目標(斉藤3)] 肺、腎の主要証のポイントを把握する。	
	[授業概要(斉藤4)] 症例検討	文献の症例より病証の把握手順やポイントを理解する。
	[到達目標(斉藤4)] 症例に対する基本的な弁証の進め方、その治療法を理解する。	
	[授業概要(斉藤5)] 症例カンファレンス 2	自分の経験した症例について、主訴、所見、病因、病機、診断、治療を発表する。
	[到達目標(斉藤5)] 症例を提示させ、その病証を理解する。斉藤、和辻	
	[授業概要(和辻5)] 外感病	六淫の特徴や感冒の弁証を理解ができるよう復習する。
	[到達目標(和辻5)] 六淫・六経弁証の特徴を説明できる。	
	[授業概要(和辻6)] 経絡治療	経絡治療の特徴を理解し、その要点を説明することができる。
	[到達目標(和辻6)] 経絡治療の概要を理解でき、診療や基本の治療配穴ができる。	
	[授業概要(和辻7)] 経絡を応用した診察	変動経絡検索法の基本を理解するために関連図書を読む。
	[到達目標(和辻7)] 経絡を応用した診察(変動経絡検索法)の基本を説明できる。	
	[授業概要(斉藤6)] 臨床に関連した東洋医学古典 1	元となる古典の概要や臨床との関連を復習する。
	[到達目標(斉藤6)]	
	[授業概要(斉藤7)] 臨床に関連した東洋医学古典 2	元となる古典の概要や臨床との関連を復習する。
	[到達目標(斉藤7)]	
	[授業概要(斉藤8)] 症例カンファレンス 3	症例より病証の把握を理解する。
	[到達目標(斉藤8)] 症例を提示させ、その病証を理解する。斉藤、和辻	
テキスト(配付資料)	適宜指示する。	
参 考 文 献	1) HARI なび 2) 中医弁証学, 東洋学術出版社 3) 中医針灸学の治法と処方, 東洋学術出版社	
評 価 方 法	課題に対するレポートおよびプレゼンテーションより評価する。	
そ の 他 (アドバイス等)		

授 業 科 目 名	附属鍼灸センター特別実習					
単 位 数 等	単位数	4単位	授業形態	実習	授業年次	1年通年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 伊藤和憲 ほか					
テ ー マ	鍼灸診療におけるスキルの向上					
授 業 の 概 要	附属鍼灸センターにおいては、実地臨床実習を通して、診察・治療技術および評価法に関するスキルを向上させる。来院する患者を診察(東西両医学の観点から)し、治療方針を組み立て、治療を実施し、治療効果を評価する。一連の臨床の過程をより高度に実習する。					
視 点 (ねらい)	実地臨床実習を通して、東西両医学の視点から診察・治療技術および評価法に関するスキルを向上させる。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
別途指示	[授業概要]別途指示する。					
	[到達目標]別途指示する。					
テキスト (配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法		実習における鍼灸診療の実際および実技試験より評価する。				
そ の 他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	附属病院特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 苗村健治、糸井啓純、糸井 恵、納谷佳男、樋口敏宏、山田 潤、 大藪秀昭、木村篤史、小野公裕、小藤和孝					
テ ー マ	附属病院各診療科の診療の実際と業務について					
授 業 の 概 要	附属病院においては、開設されている診療科をローテーションし、医療 スタッフの一員として参加し、医療現場における業務役割と医療従事者 との連携について実習する。加えて、診療各科の特色について学習する。					
視 点 (ねらい)	附属病院で開設されている診療科の業務とその役割を担う医療従事者に ついて理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
別途指示	[授業概要]別途指示する。					
	[到達目標]別途指示する。					
テキスト (配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法		病院実習における実習および実技試験により評価する。				
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	臨床鍼灸研究技法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者 (◎は科目責任者)	◎ 伊藤和憲、北小路博司、井上基浩、田口玲奈、廣 正基、川喜田健司					
テ ー マ	臨床研究の基本					
授 業 の 概 要	<p>臨床研究の基本的事項について学習する。臨床研究には、様々な臨床研究があり、それぞれの研究方法論について学習する。特に鍼灸臨床にとって、有用な臨床研究法について学習する。</p> <p>(山崎 翼/3 回) 症例報告・アンケートのしかたについて 基本的な医療推計学について 疲労の評価について</p> <p>(川喜田健司/1 回) 疼痛の評価について</p> <p>(井上基浩/3 回) 頸肩四肢症状の評価について 腰・下肢症状の評価について 膝の症状の評価について</p> <p>(北小路博司/1 回) 泌尿器症状の評価について</p> <p>(福田文彦/2 回) 緩和ケア領域における症状の評価について ストレスの評価について</p> <p>(伊藤和憲/2 回) 慢性痛（線維筋痛症）の評価について 健康関連の QOL について</p> <p>(田口玲奈/1 回) 月経に伴う症状および更年期障害の評価について</p> <p>(廣 正基/1 回) 循環器疾患の評価について</p> <p>(斉藤宗則/1 回) 東洋医学的評価について</p>					
視 点 (ねらい)	臨床研究に関する研究法の基本について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要(山崎1)] 症例報告・アンケート報告の仕方について学習する。 [到達目標(山崎1)] 症例報告・アンケート報告の仕方について理解する					
2	[授業概要(山崎2)] 基本的なデータ集計について学ぶ。 [到達目標(山崎2)] 平均値、標準偏差、変動係数などの基本統計量について理解する。データ種類別の集計方法を学ぶ。			将来自分が行う研究について、どのようなデータを扱うかを事前に確認しておく。可能であれば PC を持参する。		
3	[授業概要(山崎3)] 疲労の評価について解					

	<p>説するする。</p> <p>[到達目標(山崎3)]疲労の評価について理解する。</p>	
4	<p>[授業概要(井上1)]腰・下肢症状の評価・研究方法について解説する</p> <p>[到達目標(井上1)]腰・下肢症状の評価方法、研究方法について理解する。</p>	腰・下肢症状に対する鍼灸臨床研究の論文を読む。
5	<p>[授業概要(井上2)]膝の評価について解説する</p> <p>[到達目標(井上2)]膝の評価について理解する。</p>	
6	<p>[授業概要(井上3)]頸肩四肢痛の評価について解説する。</p> <p>[到達目標(井上3)]頸肩四肢痛の評価について理解する。</p>	
7	<p>[授業概要(北小路)]泌尿・生殖器系疾患の内、過活動膀胱・前立腺疾患(肥大症と炎症)およびEDの評価法についてそのスコアと意義について述べよ。</p> <p>[到達目標(北小路)]鍼灸臨床における過活動膀胱・前立腺疾患(肥大症と炎症)およびEDの評価票の運用方法について述べよ。</p>	特になし。
8	<p>[授業概要(福田1)]緩和ケア領域における症状の評価について解説する。</p> <p>[到達目標(福田1)]緩和ケア領域における症状の評価について理解する。</p>	
9	<p>[授業概要(福田2)]ストレスの評価方法について解説する。</p> <p>[到達目標(福田2)]ストレスの評価方法について理解する。</p>	
10	<p>[授業概要(田口)]月経に関連した症状と更年期障害の病態生理および鍼灸治療に応用可能な評価方法について事前調査し、議論する。</p> <p>[到達目標(田口)]月経に関連した症状と更年期障害の病態生理について理解する。また、鍼灸治療に応用可能な評価方法を調査でき、理解する。</p>	
11	<p>[授業概要(伊藤1)]SF36やEuroQolなど包括的健康関連QOLの基本的なコンセプトと鍼灸臨床における活用について学習する。</p> <p>[到達目標(伊藤1)]包括的健康関連QOLのコンセプトを理解し鍼灸臨床に活用する知識を身につける。</p>	
12	<p>[授業概要(伊藤2)]慢性痛の評価について解説する</p> <p>[到達目標(伊藤2)]慢性痛の評価について解説する</p>	
13	[授業概要(斉藤)]東洋医学的な評価につ	

	いて解説する [到達目標(斉藤)] 東洋医学的な評価について解説する	
14	[授業概要(川喜田)]臨床研究でよく用いられる疼痛の評価方法について解説するとともに、最近の基礎研究における知見も併せて紹介する。 [到達目標(川喜田)]臨床試験における適切な疼痛評価の方法を理解する。	痛みを指標とした鍼の臨床研究の論文を事前に読んでおくことが望ましい。
15	[授業概要(廣)]循環器疾患の評価について鍼灸臨床で鍼灸師が行える評価方法について教授する。 [到達目標(廣)] 循環器疾患の評価方法について鍼灸師が行えるものについて調査し報告することができる。	
テキスト (配付資料)		
参 考 文 献		
評 価 方 法		課題に対するレポートおよびプレゼンテーションより評価する。
その他 (アドバイス等)		

授 業 科 目 名	内科系臨床鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	福田文彦					
テ ー マ	内科系疾患(老年病含む)の主要症状および疾患に対する病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について学習する。					
授 業 の 概 要	内科系疾患(老年病含む)の症状に対する鍼灸臨床が専門的にできる診察能力を養う。それらの病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について参考文献を参照しながら学習し、臨床応用ができる能力を養うとともにこの分野での専門性を培う。					
視 点 ( ね ら い )	内科系疾患(老年病含む)の主要症状および疾患に対して専門的に鍼灸臨床ができる基礎能力を養う。					
テキスト(配付資料)	適宜指示する。					
参 考 文 献						
評 価 方 法	出席と課題に対するレポートにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	整形外科系臨床鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	井上基浩					
テ ー マ	運動・神経機能系（整形外科系）の主要症状および疾患に対する病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について学習する。					
授 業 の 概 要	運動・神経機能系（整形外科系）として、主要な運動器疾患（関節部の疾患、脊椎部の疾患など）と末梢神経障害（絞扼神経障害、外傷など）の症状に対する鍼灸臨床が専門的にできる診察能力を養う。それらの病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について参考文献を参照しながら学習し、臨床応用ができる能力を養うとともにこの分野での専門性を培う。					
視 点 （ ね ら い ）	運動・神経機能系（整形外科系）の主要症状および疾患に対して専門的に鍼灸臨床ができる基礎能力を養う。					
テ キ ス ト（ 配 付 資 料 ）	適宜指示する。					
参 考 文 献						
評 価 方 法	出席と課題に対するレポートにより評価する。					
そ の 他（ ア ド バ イ ス 等 ）						

授 業 科 目 名	外科系臨床鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、和辻 直、田口玲奈					
テ ー マ	外科系(脳外科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、眼科・耳鼻科領域及び疼痛領域、末梢循環障害、緩和ケア領域)の主要症状および疾患に対する病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について学習する。					
授 業 の 概 要	外科系(脳外科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、眼科・耳鼻科領域及び疼痛領域、末梢循環障害、緩和ケア領域)の症状に対する鍼灸臨床が専門的にできる診察能力を養う。それらの病態と診察方法及び鍼灸治療の方法とその臨床効果について参考文献を参照しながら学習し、臨床応用ができる能力を養うとともにこの分野での専門性を培う。					
視 点 ( ね ら い )	外科系(脳外科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、眼科・耳鼻科領域及び疼痛領域、末梢循環障害、緩和ケア領域)の主要症状および疾患に対して専門的に鍼灸臨床ができる基礎能力を養う。					
テキスト(配付資料)	適宜指示する。					
参 考 文 献						
評 価 方 法	出席と課題に対するレポートにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	ウェルネス臨床鍼灸学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	廣 正基、木村啓作、山崎 翼					
テ ー マ	健康・ウェルネス分野における鍼灸臨床の意義とその有用性について					
授 業 の 概 要	本科目では、スポーツ鍼灸学・健康鍼灸学・加齢鍼灸学より構成される。スポーツ鍼灸学ではスポーツ外傷の応急処置法、スポーツ障害の代表的な疾患の成因と臨床について学習し、スポーツ鍼灸学における専門的な臨床知識を習得する。健康鍼灸学では、健康維持・増進、美容鍼灸、産業鍼灸など健康・ウェルネスなどの臨床について学習し、健康鍼灸学における専門的な臨床知識を習得する。加齢鍼灸学では、アンチエイジング、高齢者の自立支援、老年疾患の特徴と予防・治療法などについて学習し、加齢鍼灸学における専門的な臨床知識を習得する。					
視 点 ( ね ら い )	1) ウェルネスの意義と伝統医療との関連性の理解 2) スポーツ鍼灸学における専門的な臨床知識の理解 3) 健康鍼灸学における専門的な臨床知識の理解 4) 加齢鍼灸学における専門的な臨床知識の理解					
テキスト(配付資料)	適宜指示する。					
参 考 文 献						
評 価 方 法	出席と課題に対するレポートにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	内科系臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	演習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	福田文彦					
テ ー マ	内科系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて学習する。					
授 業 の 概 要	本科目は特論で行った科目を踏まえ、内科系疾患の主要疾患・症候をとりあげ、これら疾患の病態について十分に理解し、それぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて、文献に基づいて考察する。それらを踏まえて各疾患・症候を適切に診察し、鍼灸治療を行い、治療効果を評価できる能力を修得する。鍼灸師の立場として、鍼灸臨床を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。これらのことを通してこの分野での専門的な診療能力を培う。					
視 点 (ね ら い)	内科系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序、さらには治療効果の評価など鍼灸臨床を実践する上で必要な知識・技術を修得する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	整形外科系臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	演習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	井上基浩					
テ ー マ	運動・神経系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて学習する。					
授 業 の 概 要	本科目は特論で行った科目を踏まえ、運動・神経機能系（整形外科系）として、主要な運動器疾患（関節部の疾患、脊椎部の疾患など）と末梢神経障害（絞扼神経障害、外傷など）をとりあげ、これら疾患病態について十分に理解し、それぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて、文献に基づいて考察する。それらを踏まえて各疾患・症候を適切に診察し、鍼灸治療を行い、治療効果を評価できる能力を修得する。鍼灸師の立場として、鍼灸臨床を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。これらのことを通してこの分野での専門的な診療能力を培う。					
視 点 （ ね ら い ）	運動・神経系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序、さらには治療効果の評価など鍼灸臨床を実践する上で必要な知識・技術を修得する。					
テキスト（配付資料）						
参 考 文 献						
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価					
その他（アドバイス等）						

授 業 科 目 名	外科系臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	演習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、和辻 直、田口玲奈					
テ ー マ	外科系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて学習する。					
授 業 の 概 要	<p>本科目は特論で行った科目を踏まえ、外科系(脳外科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、眼科・耳鼻科領域及び疼痛領域、末梢循環障害、緩和ケア領域)等における主要疾患や主要症状を取上げ、これら疾患病態について十分に理解し、それぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序などについて、文献に基づいて考察する。それらを踏まえて各疾患・症候を適切に診察し、鍼灸治療を行い、治療効果を評価できる能力を修得する。鍼灸師の立場として、鍼灸臨床を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。これらのことを通してこの分野での専門的な診療能力を培う。</p>					
視 点 ( ね ら い )	外系疾患の主要疾患・症候の病態の理解及びそれぞれの疾患に対する鍼灸治療の臨床効果や作用機序、さらには治療効果の評価など鍼灸臨床を実践する上で必要な知識・技術を修得する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	ウェルネス臨床鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	演習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	廣 正基、木村啓作、山崎 翼					
テ ー マ	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等における主要疾患や主要症状に対する予防法・治療に関する知識。技術の修得					
授 業 の 概 要	本科目は特論で行った科目を踏まえ、スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等における主要疾患や主要症状に対する予防法・治療について、鍼灸臨床を実践する上で必要なテクニックを修得できるよう指導する。これらのことを通してこの分野での専門的な診療能力を培う。					
視 点 ( ね ら い )	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等の分野における主要疾患や主要症状に対する予防法・治療に関する専門的な診療能力を修得					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	附属病院内科系特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	1、2 年通年
授 業 担 当 者	福田文彦					
テ ー マ	附属病院の内科系外来や病棟での臨床実習					
授 業 の 概 要	附属病院の内科系外来や病棟において、医師及び医療従事者(看護師、臨床検査技師、理学療法士など)がどのような役割をもって臨床に従事しているかを理解するとともに診察法、検査法、治療法、処置などを理解し、医療の現場におけるチーム医療のシステムを理解すると共に、チーム医療における鍼灸師の役割を認識する。内科系に特化した実習を行う。					
視 点 ( ね ら い )	附属病院の内科系外来や病棟での実習を通して専門的な実践的臨床能力を培うとともにチーム医療のシステム及びチーム医療における鍼灸師の役割を理解する。					
テ キ ス ト ( 配 付 資 料 )						
参 考 文 献						
評 価 方 法	実習態度、知識、診療能力など総合的に評価					
そ の 他 ( ア ド バ イ ス 等 )						

授 業 科 目 名	附属病院整形外科系特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	井上基浩					
テ ー マ	附属病院の整形外科系外来や病棟での臨床実習					
授 業 の 概 要	附属病院の整形外科系外来や病棟において、医師及び医療従事者(看護師、臨床検査技師、理学療法士など)がどのような役割をもって臨床に従事しているかを理解するとともに診察法、検査法、治療法、処置などを理解し、医療の現場におけるチーム医療のシステムを理解すると共に、チーム医療における鍼灸師の役割を認識する。整形外科系に特化した実習を行う。					
視 点 ( ね ら い )	附属病院の整形外科系外来や病棟での実習を通して専門的な実践的臨床能力を培うとともにチーム医療のシステム及びチーム医療における鍼灸師の役割を理解する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	実習態度、知識、診療能力など総合的に評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	附属病院外科系特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	2 年通年
授 業 担 当 者	和辻 直、伊藤和憲					
テ ー マ	附属病院の外科系外来や病棟における臨床実習					
授 業 の 概 要	附属病院の外科系外来や病棟において、医師及び医療従事者(看護師、臨床検査技師、理学療法士など)がどのような役割をもって臨床に従事しているかを理解するとともに診察法、検査法、治療法、処置などを理解し、医療の現場におけるチーム医療のシステムを理解すると共に、チーム医療における鍼灸師の役割を認識する。外科系に特化した実習を行う。					
視 点 ( ね ら い )	附属病院の外科系外来や病棟での実習を通して専門的な実践的臨床能力を培うとともにチーム医療のシステム及びチーム医療における鍼灸師の役割を理解する。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	実習態度、知識、診療能力など総合的に評価					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	ウェルネス臨床鍼灸学特別実習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	実習	授業年次	1、2 年通年
授 業 担 当 者	廣 正基、木村啓作、山崎 翼					
テ ー マ	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等のそれぞれの臨床現場で実習					
授 業 の 概 要	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等における主要疾患や主要症状に対する予防法・治療法について、それぞれの臨床現場で実習を行う。スポーツ鍼灸は、主としてスポーツ専門外来およびスポーツ関連施設で、健康鍼灸及び加齢鍼灸は主として附属鍼灸センター及び京都駅前鍼灸センターで行い、必要に応じて外部施設においても実習を行う。					
視 点 ( ね ら い )	スポーツ鍼灸・健康鍼灸・加齢鍼灸等のそれぞれの臨床現場での実習を通して専門的な実践的臨床能力を培う。					
テキスト(配付資料)						
参 考 文 献						
評 価 方 法	実習態度、知識、診療能力など総合的に評価					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究					
単 位 数 等	単位数	8 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、福田文彦、伊藤和憲、井上基浩、廣 正基					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	<p>「特別研究」は専門領域に関する臨床研究である。特別研究を行うにあたって、研究指導教員との面談の上、研究課題を決定し、研究を進める研究指導教員の特別研究課題は、下記のとおりである。</p> <p>(和辻 直) 緩和医療における鍼灸治療の位置づけに関する研究  (福田文彦) ストレス症状に対する鍼灸臨床に関する研究  (伊藤和憲) 中枢感作症候群（繊維筋痛症・筋膜疼痛・機能性胃腸症など）に対する鍼灸臨床に関する研究  (井上基浩) 運動器系疾患と症状に対する鍼灸臨床に関わる研究  (廣 正基) 循環器に対する鍼灸臨床の実践</p>					
視 点 (ねらい)	特別研究の研究課題に関する論文の作成とプレゼンテーションのためのスライド作成					
テキスト(配付資料)	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。					
その他(アドバイス等)						